

**tiebreak**

先日、コートで“おおぼら”をかましてしまった。

「昔、岩東に来る前のチームで、公式戦と練習試合で、タイブレークを23連勝したことがあったんだぞ！」

言ってしまうから「23連勝って、そりゃあり得ないべ……」と、不安になったけれど、言っちゃったもんはしょうがない。そういうことにしておこう……とも思ったのだけれど……調べてみた。

札幌稲雲時代の古いテニス部通信。女子部だったこともあり、「LowVolley 背後霊（ローボレー・ハイゴレー）」というネーミングは不評だったなあ。「2003年9月」とあるから、10年半も前だ。このチームは全員が高校からテニスを始めたメンバーで、全国大会に出たワケでもないし、全道大会でも2回戦で札幌清田に当たって負けたのだ。でも、頑張るチームだった。朝練も相当早い時間から来てやっていたし、頑張りすぎるものだから、私はいつも故障の心配ばかりしていた。

そして、タイブレークは“23連勝”じゃなく、“11連勝”だった。まあ、いっか。この際、23連勝ということにしとこうか……とも思ったけれど、やはり心が痛むので訂正したい。

されど、11連勝。6-6タイブレークになるぐらいだから、両者は限りなく五角である。勝敗の可能性は五分五分。その試合を2連勝するのだから1/4の確率である。11連勝だと（計算の上では）1/2048ということになる。あり得ない……“11連勝”、1/2048の確率というのは、五角の対戦にしては、あまりに偏った“異常な”数字だとは思わないか？

何か、特別の理由でもあるのか？……それは、ある。確かにあるのだ。しかし、ここに書いて説明できるようなことでもない。

いずれにせよ、彼女たちは、4-5 down の時も6-5 down の時も、とにかくタイブレークにさえすれば勝てると本気で信じていた。逆に、5-4 up の時も6-5 up の時も、タイブレークになったって大丈夫、という心の余裕があった。だから、競った試合では、めっぽう強かった。

“11連勝”のことを書いた当時のテニス部通信をつけておくので、目を通してほしい。私は、今と同じことを書いているなあ。